

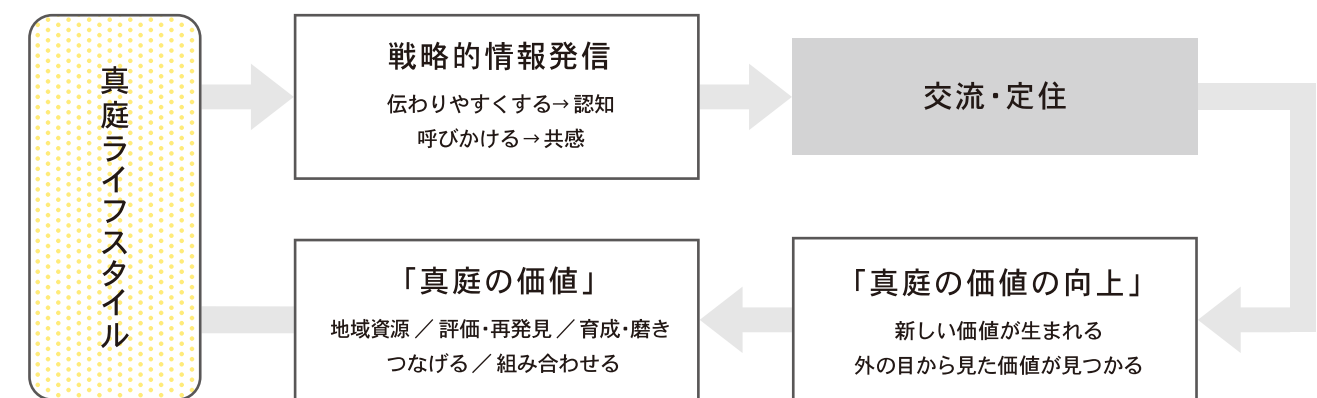
## 真庭ライフスタイルの提案

「真庭ライフスタイル」とは  
(多彩な真庭の豊かな生活)

真庭市にとって一番大切なものは、市民一人ひとりの生活です。すべての「ひと」が、安心して安全に暮らせる「まち」で、真庭市で生きる価値を見つけること。そして自らの手でつくり上げていく自分らしい「生き方」、誇りを持って生きていく「考え方」、互いを尊重した「暮らし方」。それが「真庭ライフスタイル」です。今の私たちの生活です。

なぜ、「真庭ライフスタイル」を提案するのか

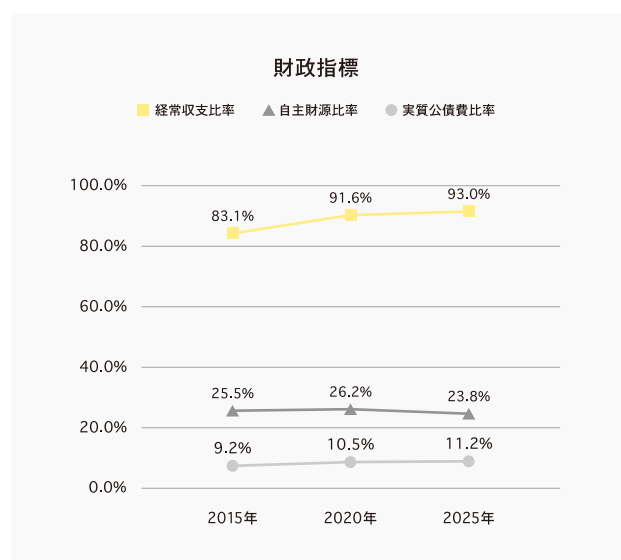
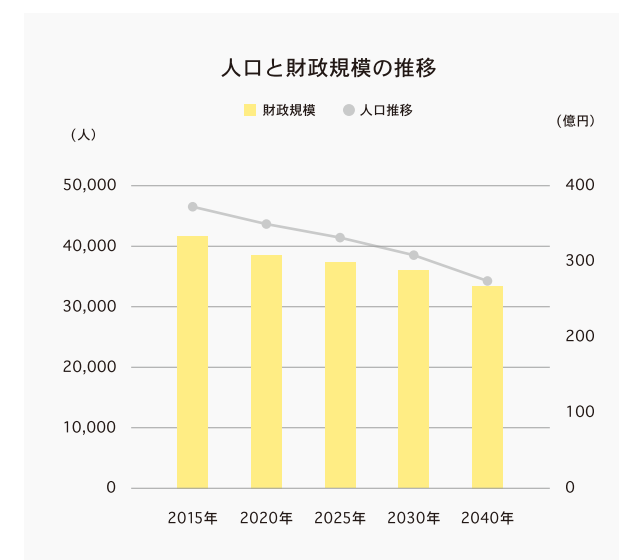
これから真庭市と日本を取り巻く社会環境は大きく変わっていくでしょう。しかし、それでも「ひと」の生活には時代を超え必要なものがあり、それは今の真庭市に備わっているものです。生活の知恵が結晶した文化と「ひと」が息づく自然、景観、風景。複数の生き方ができる安心と心の結びつき、自分の生き方が時間をかけて実現できる多彩で豊かな「まち」、それが確かにここにあります。



## 財政フレーム

目指すべき財政健全化の指標

生産年齢人口割合の減少による地方税の減収、高齢人口割合の増加による扶助費など社会保障関連費の増加が予想され、さらに普通交付税が縮減し財政状況は悪化していく傾向があります。



## 『多彩な真庭の豊かな生活』への6つの柱

総合計画の基本目標である「多彩な真庭の豊かな生活」は「ひと」「まち」「市役所」のそれぞれが、「地域資源が循環する持続可能なまちづくり(多彩性・循環性・環境性・持続性・自給性を高めること)」を進めることにより達成されます。基本計画と各施策は、この基本目標達成のために、以下の6つの考え方・方向性を「柱」として実施します。

### 1 「縦軸」と「横軸」の連携による参画と協働を進める(主催者としての権利と義務)

さまざまな分野で真庭市の魅力を生み出し、地域を支え合い、公共サービスの領域を充実させるのは、住民自治の原点である参画と協働です。地域の活動(自治会・地域自主組織などの地域に根差した垂直方向の繋がり=縦軸)と市民活動(NPOや各種団体などのテーマごとの地域を超えた繋がり=横軸)や企業等が縦横に連携し、成熟した「まち」にふさわしい参画と協働を進めていきます。

### 2 教育・子育て環境を充実させる(創造性と生きる力)

教育は「ひと」の可能性を伸ばし、子育ては地域を担う人材を育み、「まち」の持続可能性を高め、多彩性や活気の源になります。教育と子育ての環境を充実させることで、「ひと」がそれぞれの持つ能力を伸ばし発揮できる多彩で元気な「まち」をつくります。

### 3 市民の知恵や経験、能力、個性を生かす(地域の財産)

熟年者は知恵や経験を、人口の半分以上を占める女性は地域生活を支えるネットワークと元気を、障がい者はアイデアと工夫をもつ「地域の財産」です。真庭市の魅力と活力をさらに増やすため、やりがいや生きがいを感じ、誰もが活躍できる「まち」を目指します。

### 4 「つながり」により持続可能性を向上させる(連携と循環)

歴史や文化、地縁など今の真庭市にある「つながり」を生かし多彩性を育てることが、持続可能で豊かな真庭市になる鍵です。市内各地域や団体などを組み合わせる「連携」と地域資源の価値を大きくする「循環」が、多彩性を成長させます。市外とも「連携と循環」することで、真庭市の持続可能性をさらに上げていきます。

### 5 持続可能な地域の発展に向けた「SDGs」を推進する(地球市民としての決意)

総合計画の全体を貫く考え方は「人間の安全保障」であり、これは持続可能でよりよい世界を目指すSDGsの理念と共通しています。このSDGsの理念は、全市民が主体的に参加し達成すべき目標であることを改めて宣言するとともに、市役所として率先して取り組んでいきます。

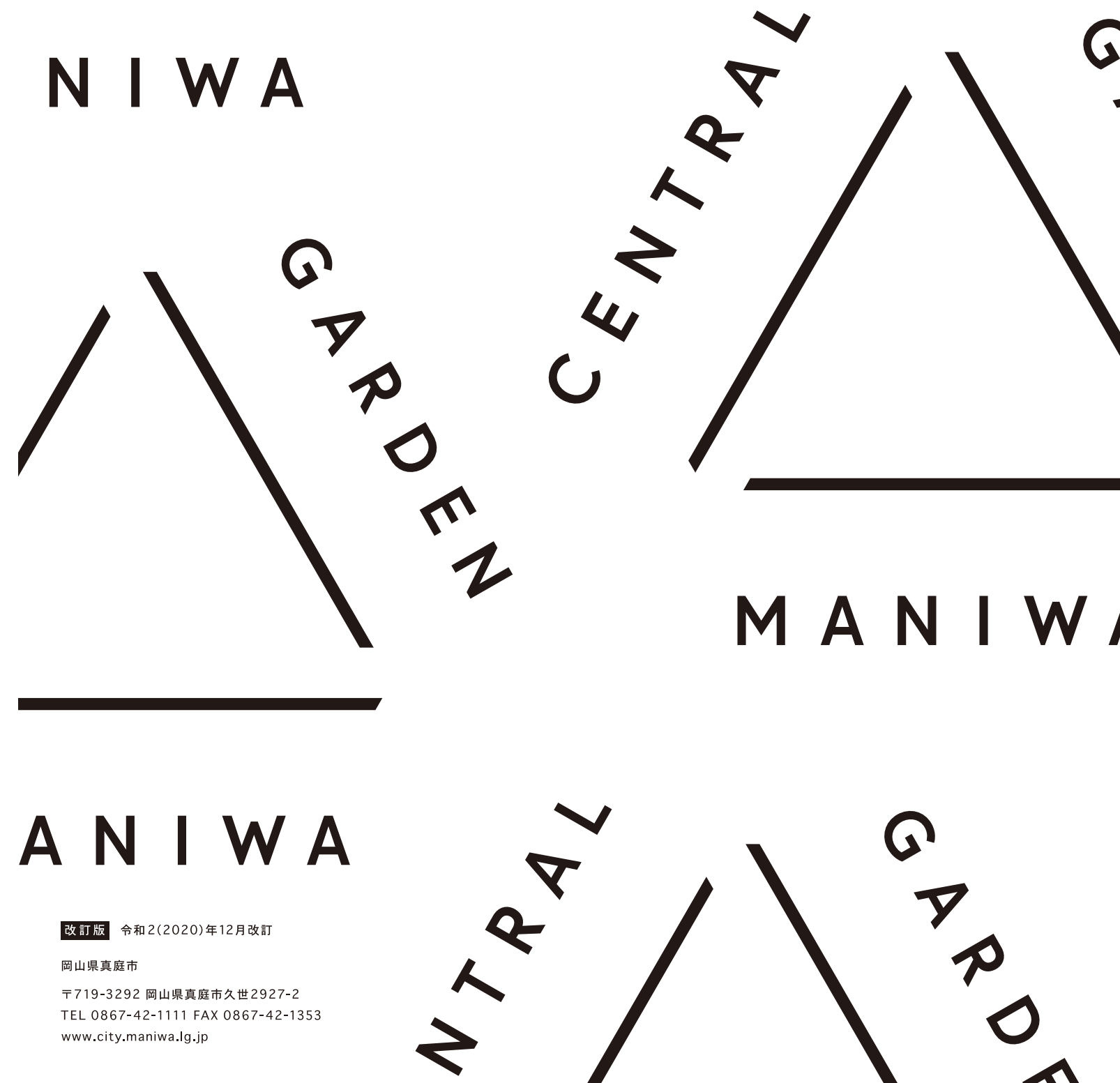
### 6 全ての市民が相互に尊重し、共に生きる地域を実現する(誰一人取り残さない)

真庭ライフスタイルの原点は、一人ひとりの暮らしを大切にしつつ、全ての市民が相互に尊重し、共に生きる地域の実現です。この「地域に暮らす価値」として、教育と文化の力、コミュニティと市民の力を大切にしながら、多様性を相互に尊重し、互いに応援しあう、人と人、人と地域で善意の輪が循環連携する共生社会を構築していきます。

ひと・まち・市役所

## 第2次真庭市総合計画

里山資本主義真庭の挑戦



改訂版 令和2(2020)年12月改訂

岡山県真庭市  
〒719-3292 岡山県真庭市久世2927-2  
TEL 0867-42-1111 FAX 0867-42-1353  
www.city.maniwa.lg.jp

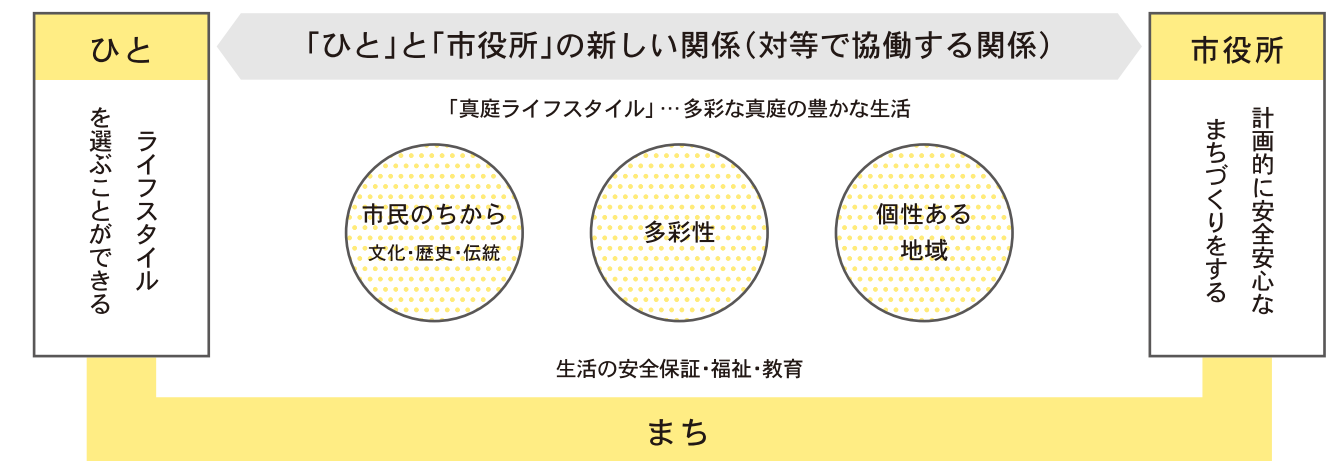
## 基本理念

● 誇り ● 許容性 ● 持続可能性 ● 安全安心 ● 教育

真庭市が将来につながっていくためには、市民がまちに【誇り】を持つことが大切です。さらに、互いに尊重し合い様々な考え方を認める【許容性】を育てていくことが平和な社会を実現し、【持続可能性】とまちの進化を保障します。また、【安全安心】なまちであることと、【教育】を充実させることが、真庭市の大きな役割です。

## 基本構想

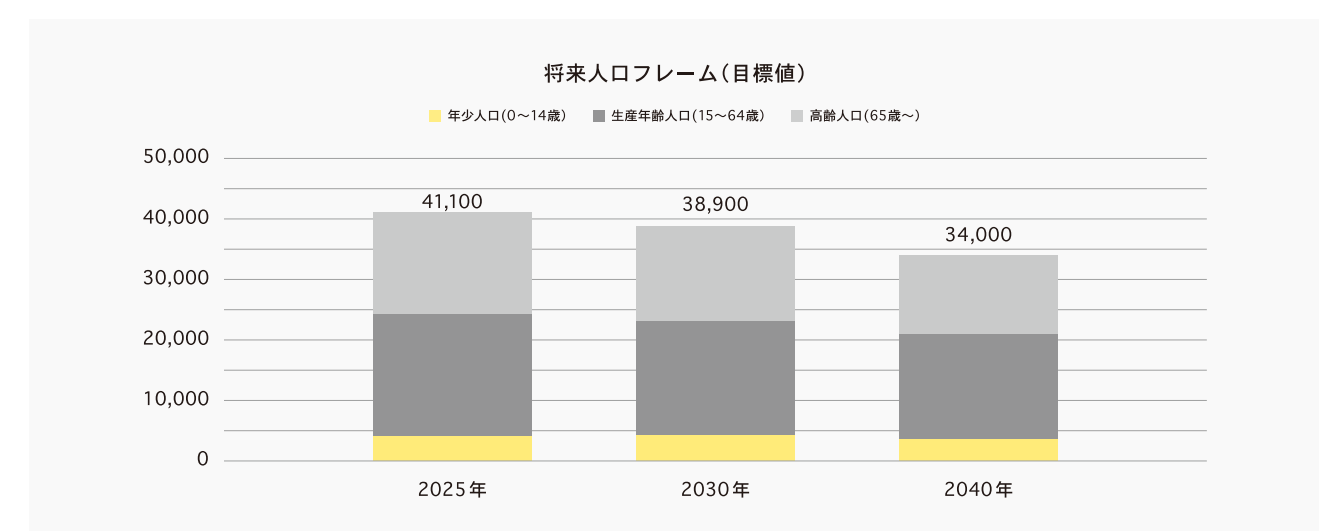
「ひと」と「まち」と「市役所」は、真庭市の多彩性を生かしながら互いに高め合い、真庭市で生活する価値をより豊かにし、まちの持続可能性を高めていきます。



## 人口フレーム

2040年の人口規模と年齢構成の目標

人口規模や年齢構成は、財政規模、提供する行政サービスの量と質の想定、さらに将来の政策立案に大きく影響します。これから急速に少子化と高齢化が進み、年齢構成が大きく変化します。人口減少を少しでも緩やかにし、また早期に年齢構成を安定させることが、将来の真庭市の経営にとって重要になります。※国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口では、2040年の真庭市の人口は32,787人と推計されています。あらゆる施策を実施し、人口フレーム達成を目指します。





# 基本計画

ひと	私たちが創り未来につなげる
----	---------------

自分に誇りを持ち、互いに尊重し合う「真庭市」になること。主権者として責任ある判断と行動をし、「真庭市の経営」に関わること。そのためには、「真庭市」について知り、良さを認めること。これが、将来の真庭市民のために「まず最初にできること」です。そして、少し広い視点を持ち日本全体や世界のことを考え、一人ひとりが「地球市民」として新たな一歩を踏み出すことで「まち」の可能性が広がります。

## 誰もが尊重され存在を認め合う

- 熟年者、女性、障がい者などあらゆる「ひと」が、社会参加できる仕組みをつくります
- 「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)のとれた社会をめざします
- あらゆる場所や生涯にわたるあらゆる段階で、真庭を知り、市民として誇りを持てるための学習機会を提供します

## 「市の主権者」「地球市民」「地域の人」として意識し行動する

- 「自分でできること(自助)」「地域でできること(共助)」を大切に生活支援体制を充実させます
- 地域通貨など、「ひと」の活動の対価を市内で連携・循環する仕組みをつくります
- 若者が、社会・地域の一員としての自覚を持ち、主権者として責任のある判断と行動ができるよう主権者意識の醸成に努めます

木質バイオマス発電や生ゴミから出来た液肥など、資源循環を普段の生活の中で体感して学ぶことが出来るって、本当にすごいですよ。使われていなかったものやごみが資源になることを目の当たりにして、捨てるという考え方を捨てました。ずっと住み続けるためにはどうすればいいんだろう？とか、周りで困っている人はいないかな？なんて考えたりするようになりました。



まち	多彩性と循環性のあるまち
----	--------------

教育と社会福祉は、人生と生活の安全と豊かさを保障するもので、社会の責任であり「ひと」とっては重要な権利です。どちらが欠けてもライフスタイルを実現することはできず、この二つがそろってはじめて、ライフスタイルの実現の可能性が広がります。

## 一人ひとりの可能性を広げる(子育て・教育)

- 学ぶ力・生活する力・関わる力を獲得できる「子育て・教育環境」を整備します
- 虐待やいじめ、差別などの子どもの悩みに対して、相談、見守り、支援体制を構築します
- 障がいの有無に関わらず、さまざまな段階での多様な学びの場づくりを進めます
- 子どもを地域ぐるみで見守り、育むための支援体制をつくります

## 認定こども園の充実を図り、就学前教育の環境づくりを進めます

- 豊かな自然や人を教材にした、郷育(ふるさと学習)を推進します
- 市内高等学校の魅力向上に積極的に取り組みます

## 生活の中で文化を楽しむ(文化・芸術・スポーツ)

- 生活と「まち」を魅力あるものにするため、生活の中にある文化を育てます
- 「文化のかおり」がするまちづくりを進めます
- 障がいの有無に関わらず、誰もが気軽にスポーツに関わり楽しむことができる環境をつくります
- 市民の手によるスポーツ文化施設経営を推進します

## 安心な生活を地域で支え合う(健康・福祉)

- 社会参加を生きがいづくり・健康づくりにつなげ健康寿命を延ばします
- 障がい者等の自立した生活を支援するため、ハード・ソフト両面のバリアフリー社会を実現します
- 地域包括ケアシステム(医療・介護等福祉サービスを一体的に行う仕組み)を充実させ、熟年者が地域で暮らせる体制をつくります

多彩な「まち」になるには、地域資源(もの、ひと、歴史、文化など)の創出や活用が必要です。個性ある地域をつくり、地域資源に付加価値を付ける「回る経済」で「しごと」づくりができていきます。一人ひとりのライフスタイルに応じた「しごと」ができる多彩な「まち」を目指します。

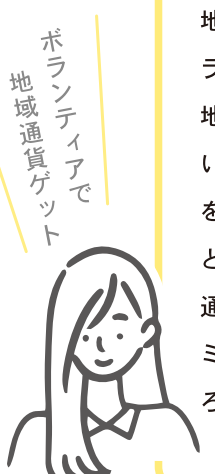
## 多彩な地域の個性を育てる

- 地域の強みや誇りを真庭市の魅力として発信します
- 関係人口を増やし、市外からの移住者を地域ぐるみで支援するために交流定住センターを充実します
- 真庭市の価値を見つめ直し、地域資源を生かした魅力的なライフスタイルを提案します
- 自然環境や里山風景を将来に継承するため、里山の担い手を育成します

## 地域資源を生かした「回る経済」を確立する

- 地域資源に付加価値をつけながら市内外で循環する「回る経済」を確立します
- 農林畜産業の基盤強化と市内加工による6次産業化を推進します
- 地域資源を組み合わせ合わせた新しい観光の取り組みを支援します
- 農福連携など熟年者や障がい者にとって働きがいのある「しごと」づくりを進めます
- 再生可能エネルギーを活用した産業づくりを進めます

地域の熟年者でつくる「地域の文化を伝える」ボランティアに参加しています。地域の「つとめ・遊び・食・文化・言葉」を伝承していますが、自分の子ども時代のことや親のことを思い出したりして、懐かしい気持ちになることも多いです。ボランティアをすることで、地域通貨での「稼ぎ」があります。地域間の移動は、コミュニティバスや福祉車両などで行きたいところに気軽に行けます。



「ひと」の可能性と「まち」の多彩性を結び付けることで、「真庭ライフスタイル」が実現します。生活しやすく、個性豊かで安全安心な都市がそれを助けます。人生を楽しむ文化と人口減少や高齢化に応じた品格のある「都市」を将来の真庭市民に引き継ぎます。

## 生活の安全安心を高める

- 地域防犯力(パトロールや見守り活動など)の向上を図ります
- 交通安全活動の推進と公共交通の利便性の向上を図ります
- 自主防災組織支援や避難経路の確保、緊急避難場所の環境整備を進めます
- 消防団など地域防災力・危機管理体制を充実強化します

## 人が暮らす風景と快適な住環境をつくる

- 旭川流域の自治体と協力して、市民・NPO・企業などと協働により河川環境を保全し、上流から海ごみ対策を進めます
- 森と川が一体となった風景づくりと、市民や来訪者が美しさを感じられるまちづくりを進めます
- ごみの減量化や資源化など循環型社会を構築します
- 災害に強く、安全安心なまちづくりを進めます
- ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりを進めます

## 中心市街地とネットワーク型都市を形成する

- 地域の多彩な個性を生かした地域拠点づくりを進めます
- 人口減少や高齢化に対応し都市機能が集約した中心市街地の形成を図ります
- 中心市街地と地域拠点を公共交通網で効率よく結び、将来につながるネットワーク型都市をつくります
- 「まちなか居住」の視点も入れた、空き家を利活用した住環境を整備します

市役所	市民と新しい価値をつくる
-----	--------------

持続可能な「まち」になり、「ひと」がライフスタイルを実現できるために、「市役所」は長期展望に立った「まちの経営」と「市役所の経営」の戦略を立てなくてはなりません。どちらの経営にも主権者として市民が参画し、活躍し、新しい真庭の価値をつくり出すことが、真庭市の新しい姿です。そして、2つの戦略を効率的で確実に実施する責任を果たすため、人材育成と有機的で機動的な組織づくりを行います。

## 「ひと」と「市役所」の新しい関係を築く

- これまでの要望対応型の市の運営から、提案型の市の経営へ転換を図ります
- まちづくりの方向を市民と市役所が共有するため、広報広聴機能を充実させます
- 活動内容に応じて市民活動団体や地域活動に対する支援を行います
- 市民活動団体などを育成し、公的サービスの担い手としての受け皿づくりを行います

## 効率的に「市役所」を経営する

- 行政経営の意識を職員に徹底し、成熟した市役所経営を推進します
- 「市役所」の業務を精査し、市役所でなくても出来る仕事はアウトソーシング(外部委託)を推進します
- 全事業の効果と必要性を総点検し、むだがなく質の高い行政執行をします
- 人口や財政規模に応じた適正な公共施設再配置と効率的で持続可能な施設経営と財産活用を推進します
- 特別会計事業、地方公営企業などの独立採算や自立的な経営への取り組みを強化します
- 社会情勢の変化に柔軟で迅速に対応した組織機構の見直しを行い、有機的な組織体制を構築します
- 市民とともに政策を考え実現できる職員を育成します

地域の寄り合いや会合などにもオンラインで自宅から参加できるので、「まち」づくりにも積極的に参加しています。地理的な制約、年齢、性別、障害や疾病の有無、国籍、経済的な状況などにかかわらず、一人ひとりが、それぞれのライフスタイルやニーズに合った心豊かな暮らしを営むことができるよう、私が生活の中で気づいたことをどんどん提案しています。真庭のみんなが仲間です。

